

24日機輸通投第180号

平成24年10月10日

組合員各位

日本機械輸出組合
専務理事 倉持 治彦

エマージング等市場等対策セミナー

「発足後半年を経た第3次プーチン政権のロシア」の開催について
- 長期政権の課題、成長と改革の見通し -

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第3次プーチン体制が発足してこの11月で半年が経過しますが、この間、ロシアではWTOへの正式加盟（8月）、ウラジオストクにおけるAPECサミットの開催（9月）などエポックメイキングな出来事がありました。

国内では、油価に依存する産業構造の改革を推進し、ロシア経済を持続的な成長軌道に乗せようと試みる動きが見られる一方、プーチン氏による長期政権に嫌気する社会の停滞感にも根強いものがあるのが現状と言えます。

ビジネス面を見ると、日本からロシアへの輸出が急拡大しているほか、ロシアにおける生産進出やM&Aに乗り出す日本企業も着実に増えてきました。年間販売台数300万台から500万台への拡大が期待される自動車市場をはじめ、近代化へのニーズが高まる産業・輸送・都市インフラ・ビジネスなど、新たな事業機会が続々と芽吹く一方、新規ビジネスの構築、市場への参入、工場立地にはクリアすべき課題もあり、ビジネスをものにしたい日本企業には旺盛な現地適応力が求められています。

こうした状況の中、長年にわたり現地の情勢変化について調査分析に従事する株式会社野村総合研究所・モスクワ支店・ロシア代表の大橋巖氏を講師に迎え、現地の最新情勢及び日本企業はこの市場をどう捉え、いかに取り組むべきかについて講演いただきます。

つきましては、万障お繰り合わせの上、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時：平成24年11月7日（水） 14：00～16：30

場 所：機械振興会館 6D-1～3会議室
（東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館6階）

<http://www.jspmi.or.jp/about/access.html>

テ ー マ： 「発足後半年を経た第3次プーチン政権のロシア」
- 長期政権の課題、成長と改革の見通し -

講師略歴： **野村総合研究所・モスクワ支店・ロシア代表 大橋 巖**

上智大学外国語学部卒。ジェット口勤務(調査部門)を経て2008年から野村総合研究所へ。ロシア(ソ連)調査暦29年。うちモスクワ駐在経験は1991～98年、2001～08年、09年～12年と延べ18年に及ぶ。ウィーン比較経済研究所(現・ウィーン国際経済研究所)客員研究員(1988～89年)、明治学院大学非常勤講師(1999～2000年度)。在モスクワ・ジャパンプラブ副会長(2007年度)。ロシア連邦地方発展省企業城下町対策専門家会議メンバー(2010年)。経済団体「実業ロシア」経済戦略提言専門家会議メンバー(2011年)。

野村総合研究所は2008年にモスクワ支店を開設。日本企業のロシア事業戦略に関するリサーチ・コンサルティングのほか、ロシアの経済特区などインフラ整備コンセプトや都市・地域開発戦略などのプロジェクト受注で実績を重ねています。

会 費：無料(組合員限定)

定 員：120名

申込方法：セミナー参加ご希望の方は、11月1日(木)までに、当組合ホームページ下記URL <http://www.jmcti.org/jmchomepage/semminar/index.htm> よりお申し込み下さい。なお、申込者多数の場合は、締め切りを繰り上げる場合がございます。

*受講票等の発行はございません。セミナー当日は名刺を受付にお渡しくださいますようお願いいたします。

キャンセル方法：11月5日(月)までに下記事務局までメール又は電話にてご連絡願います。

以上

ご不明な点等ございましたら、下記事務局までご連絡下さい。

日本機械輸出組合 通商・投資グループ 担当：^{くらもと}庫元、柴岡

03-3431-9348、Fax 03-3436-6455、<mailto:tohshi@jmcti.or.jp>